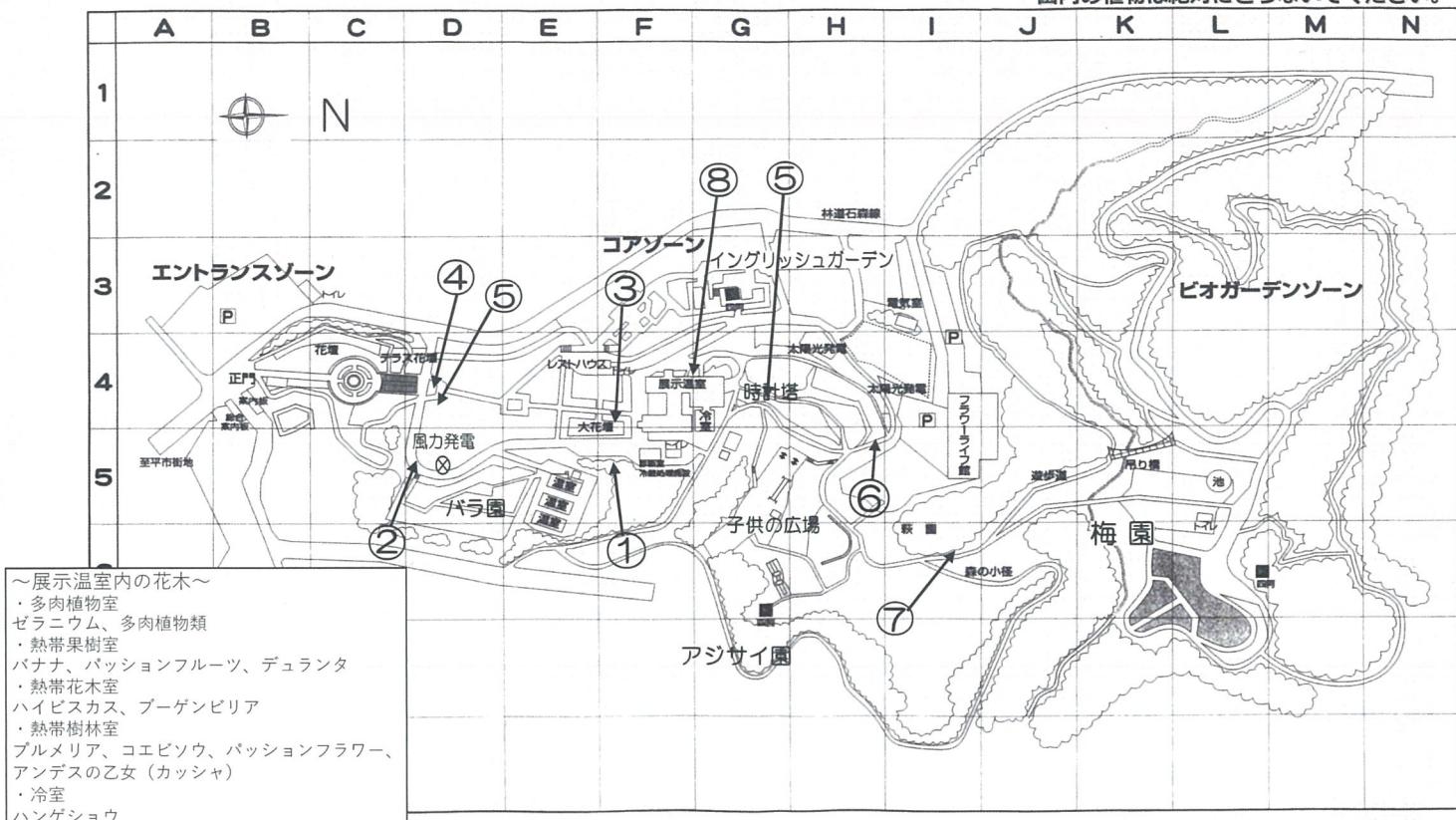


フラワーセンター【8月の花】

2020年度 8月22日更新

※園内の植物の盗難が相次いでいます。

園内の植物は絶対にとらないでください。



①アメリカフヨウ (バラ園の西側通路沿い)



オイ科 落葉低木 原産：中国中部

夏から秋にかけて最大直径15cmほどの花を咲かせます。花色は品種によって白～ピンクまで色幅（濃淡）があります。花は朝開いて夕方にはしづむ一日花で、ひとつの花自体は短命ですが最盛期は暑さにめげず毎日新しい花を途切れなく咲かせてくれます。

②コキア (展示温室前・風力発電下)



アガサ科 一年草 原産：アジア

夏になると茎に小花をびっしりと付けます。花には雄花と雌花があります。花びらではなく、淡緑色の萼があります。夏は爽やかなグリーン色の葉ですが、秋になると真っ赤に紅葉する姿が美しいです。

③ベゴニア (大花壇)



シュウカイドウ科 多年草（一年草扱い） 原産：熱帯、亜熱帯地域

多年草の中には多肉的な木質になる茎をもつ品種もあります。なかでも四季咲きベゴニアはベゴニア・センパフローレンスともいい、ブラジル原産のほぼ周年開花する品種を掛け合わせられた園芸品種群です。花色は白・ピンク・赤などがありハート形の花弁が愛らしく人気があります。

④ランタナ (正門から大階段を上って正面の花壇)



クマツヅラ科 常緑低木 原産：熱帯アメリカ・アフリカ

7～11月の高温期に小さな花を多数集めて傘状に咲かせます。花の色が橙から赤というように変化していくので、「七変化」の別名があります。開花期間が長く、丈夫なので、鉢物としてよく流通するほか、花壇などにも利用されます。

⑤ポーチュラカ (マツバボタン) (風力の西側花壇他)



スペリヒュ科 一年草 原産：南アメリカ

真夏の強い日ざしの中でも元気に咲くマツバボタン。茎が這うように広がり、枝分かれしながら咲き続けます。花壇やコンテナはもちろん、砂利道のわきや敷石の間などの乾きやすいところでもよく育ちます。

⑥アベリア (フラワーライフ館～展示温室間の通路生垣)



スイカズラ科 常緑低木 原産：東アジア、メキシコ

公園や道路沿いに数多く植栽されています。庭木としての利用はまだ少ないですが、コンパクトで好みの大きさに剪定することができ、花が美しいのはもちろん、斑入りなど、葉の観賞価値の高い園芸品種もあり、おすすめの花木です。

⑦ミヤギノハギ (萩園)



マメ科 落葉低木 原産：日本

日本に自生するハギの種類は十数種あり、白い花をつけるシラハギ、葉が円形のマルバハギが知られています。また、仙台市の宮城野から名づけられたミヤギノハギは古来より有名です。普通のハギより上品で優雅で、紅紫色の花をつけます。

⑧スイレン (展示温室の外 西側池)



スイレン科 原産：世界の熱帯～温帶

多年草の水生植物で世界の熱帯、亜熱帯に約40種類が分布しています。性質上、「耐寒性スイレン」と「熱帯性スイレン」の2タイプに分けることができます。